

－ はじめに －

平成28年度は高知県福祉事業財団及び保育所、各施設にとって最も重要な法律である社会福祉法と児童福祉法の大幅な改正が行われた。

社会福祉法改正の柱は、①経営組織のガバナンスの強化 ②事業運営の透明性の向上 ③地域での公益事業の実施であり、当法人として法改正に対応すべく理事会の協議を経て、定款の改正、機関の設置や新評議員の選任などに取り組んできた。

また、平成27年度の児童相談所の児童虐待相談件数が10万件を超え、児童虐待防止法施行前の平成11年度の8.9倍となるなど、児童を取り巻く環境の厳しさなどを背景とし、児童福祉法及び児童虐待防止法も改正された。

児童福祉法の改正においては、①子どもの権利を理念として明確化 ②家庭支援の強化、虐待の防止 ③国、都道府県、市区町村の責任と役割等を中心として従来より児童の権利を明確にしたものとなっている。

この改正の理念に沿った養育、保育を実施するためには、人材の確保、育成が不可欠との観点から平成27年度に引き続き職員採用試験を実施したところ、43名の応募者の中から三里保育園3名、丸の内保育園3名、子供の家4名、愛童園4名を正職員として採用することができた。

一方、法人の喫緊の課題である三里保育園の移転新築工事は、地元三里地区の皆様を始め多くの方々のご理解ご協力により本年2月1日に起工式を行い、平成29年11月の竣工を目指し順調に工事が進んでいる。

国が「子ども・子育て支援」を社会保障の最重要施策と位置付け様々な支援策が出される中、児童福祉の理念のもと法人の各施設が平成28年度事業計画に掲げた重点目標の取り組みは次のとおりである。

児童養護施設 子供の家

昭和24年の開園以来68年が経過し、この間の子どもを取り巻く環境の大きな変化にともない入所理由も変わってきたが、子供の家から社会に巣立っていった児童、あるいは家庭等に復帰した児童は合計1,001名に及んでいる。

昨年に児童福祉法が大幅に改正され、権利の主体者を児童とより明確にし、さらに家庭支援が強化されることとなった。

子供の家で法改正の基本的な考え方のもと、運営理念、運営目標を職員参加により議論を深め平成28年12月に策定し、今後の児童の養育支援をより充実していくこととした。

◎平成28年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 児童の権利擁護

- ① 被措置児童の虐待防止研修を始め様々な研修に職員を参加させるとともに、職員会や施設内研修を通じ、養育者としての資質の向上に努めた。

- ② ブロック会や意見箱、さらに児童アンケート等により児童の声の把握に努め、個々の児童に応じた養育に取り組んだ。

(2) 児童の養育・支援

- ① 心理担当職員を4名配置しきめ細やかなケアに対応するとともに、担当、心理士、看護師等の専門職が連携し児童に応じた養育に努めた。
- ② 教員退職者、大学生のボランティアの協力を得て学習会を実施するとともに、受験生には学習塾を活用し学力の向上を目指した。

◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応児童数 15名
- 個別対応年間実施日数 100日
- 1日当たり平均実施時間 30分
- 保護者への児童の施設での生活状況の説明

◆平成29年3月に中学又は高校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	進路等の状況
1	中卒	男	○		ヒューマンビジネス専修学校高等課程
2	〃	男	○		県立高知追手前高校普通科
3	〃	男	○		県立山田高校普通科
4	〃	男	○		県立高知北高校通信制
5	〃	男	○		県立伊野商業高校キャリアビジネス科
6	高卒	女		○	株式会社オリザ
7	〃	男		○	株式会社栗之浦ドック
8	〃	男	○		高知職業能力開発短期大学校
9	〃	男		○	社会福祉法人香南会

(3) 家庭支援の強化

- ① 社会福祉士の資格を持つ職員2名を家庭支援専門相談員として配置し体制の強化を図り、関係機関と連携し家庭復帰の実現を目指した。
- ② 児童と家庭の関係再構築のために、面会、外出、一時帰宅などを児童相談所とも協力しながら積極的に行った。

(4) 事故防止と危機管理

- ① 防災マニュアルを見直すとともに、年間避難訓練計画に基づき火災、地震、津波や不審者を想定し、様々な形で避難訓練を実施した。
- ② 備蓄食料等の点検を随時行うとともに、地域の避難所としての役割を果たすため、日頃より積極的に地域行事に参加をし地域との関係を深めた。

(5) 家庭的養護の推進

- ① 将来の全ブロック小規模化を目指し、小規模グループケア加算対象を昨年度より1ヶ所増やし5ブロックとするとともに、専任職員を各ブロック2名配置し地域分散化を見据え職員のスキルアップに取り組んだ。

(6) 関係機関連携と地域支援

- ① 地域の関係組織との連携のもと、地域の子育て支援のニーズや情報の収集に努めた。
- ② 7自治体と業務委託の契約を締結し、ショートステイの受け入れを積極的に行った。

(7) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 階層別研修や専門職研修に積極的に職員を参加させ、スキル、キャリアアップを図った。
- ② 職員参加による「子供の家」の運営理念を制定し、施設運営の向上に努めた。

◆各種研修会等への参加状況

- | | | | |
|-----------|---------|----------|-------|
| ○全養協関係 | 5回/14名 | ○中四国養協関係 | 1回/2名 |
| ○県養協関係 | 4回/22名 | ○県社協関係 | 1回/2名 |
| ○各種専門研修ほか | 6回/105名 | ○その他 | 4回/8名 |

なお、上記のほか毎月定期的に職員会、処遇会を実施するほか、必要に応じてケース検討会を実施し、情報の共有化を図ると共に資質の向上に努める。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
定員(暫定)	70名 (65名)	70名 (60名)	70名 (57名)	70名 (58名)	70名 (56名)
在籍児童数	48名	55名	47名	42名	46名
職員数	33名	31名	34名	37名	36名

※職員数：臨時・パートを含む

◆平成28年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	42	43	44	43	44	45	45	45	45	46	46	48
入所	1	1	0	1	1	0	0	1	1	0	2	1
退所	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3

◆学年別児童数

平成29年3月31日現在

	就学前		小学校						中学校			高校			その他	計
	3歳未満	3歳以上	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
男	1	3	2	2	1	3	2	3	3	0	4	1	6	1	0	32
女	1	6	3	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	14
計	2	9	5	2	2	3	2	3	4	1	4	1	6	1	1	46

◆入所主訴理由別児童数

平成29年3月31日現在

入所理由	人数	構成比	入所理由	人数	構成比
父母の行方不明	1	2.2%	虐待	11	24.2%
父母の離婚	0	0.0%	経済的理由	1	2.2%
父母の拘禁	3	6.6%	精神疾患・入院	3	6.6%
父母の傷病・入院	3	6.6%	措置変更	7	15.4%
父母の養育困難	17	36.2%			
			合計	46	100%

◆保育士、社会福祉士、介護等施設実習生の受入れ(県立大学、高知大学、高知工科大学、高知学園短大、龍馬ふくし専門学校、高知福祉専門学校等)

◆一時保護委託の状況(受託先:児童相談所)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成28年度	21名	24名	459日
平成27年度	17名	17名	304日
平成26年度	11名	16名	68日

◆子育て支援短期利用事業(受託先:高知市・南国市・伊野町・土佐市・日高村)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成28年度	8名	8名	60日
平成27年度	20名	29名	160日
平成26年度	3名	3名	74日

◆平成28年度主要な年間行事

- 4月 シニアリーグ(サッカー)開幕、市教職員組合来園、ウルトラマンステージ招待
- 5月 子どもの日バイキング、ファイティングドックス試合招待、高知市子ども劇場「ピノキオ」招待
- 6月 輪抜け祭、高知市児童福祉施設交歓スポーツ大会
- 7月 城東地区ドッジボール大会、七河川一斉清掃、幼児室ブロックBBQ
- 8月 ブドウ狩り招待、こども金融・科学教室招待、ポリショイサーカス招待キャンプ
- 9月 健康診断(鏡川LC)、バーベキュー招待(鏡川LC)、高知市子ども劇場招待
- 10月 児童福祉施設交流会、ゲゲゲの鬼太郎妖怪影絵劇招待
- 11月 フリップモジヤパン来園、本庄だんじり祭りばやし訪問、船釣り体験招待
- 12月 総合防災訓練、クリスマス会(岡崎市長、四銀労組他)、高知教会クリスマス会招待、在日本大韓民国婦人会クリスマス招待
- 28/1月 お正月祝い、踏音アーキペラゴ公演招待
- 2月 節分豆まき、Jリーグ観戦、スギテツ大音楽会招待
- 3月 皿鉢料理寄贈、総合防災訓練、高知市子ども劇場招待
- その他 ◆「散髪奉仕団・風」による散髪奉仕の来園(毎月第4月曜日)

児童養護施設 愛童園

開園以来55年が経過し、苦しく困難な家庭環境から入所した児童の養育にあたってきましたが、この間に社会に巣立った児童及び家庭等に復帰した児童は315名を数えています(平成28年度は6名が退園)。

近年は、虐待を入所理由とする児童の増加が著しく、特に親の離婚、貧困や発達障害などが要因として挙げられます。子どもや家庭をめぐる課題は複雑化、深刻化しており施設処遇においても職員の専門性とスキルの高さが求められています。

今後も、これらの児童に対する心理的ケアの充実を最重要課題として、引き続き心理士や関係機関との連携により、改善に向けた日々の努力を積み重ねてまいります。

◎平成28年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 児童の権利擁護

- ① 職員は施設内外の研修に参加するなど人権感覚を磨き、養育者としての倫理観や責任感を持ち、児童一人ひとりが安心して安全に生活できるよう生活環境の整備や養育に努めた。
- ② 権利侵害により児童の心身の健康的な発達が妨げられないよう、定期的児童集会や意見箱の設置等、児童の最善の利益を目指した養育・支援に取り組んだ。

(2) 児童の養育・支援

- ① 在園児童の 70.8%が心理療法を必要としており、児童相談所や専門機関とも連携し、職員間で情報を共有しながら児童の心理的ケアに取り組んだ。
- ② 学校と連携して就職情報を提供。児童が希望する職種選択の相談に乗るなどの就職支援を行った。
- ③ 学習ボランティアの協力も得て、学習環境の整備を行い児童の希望する進学校を目指した学習支援に取り組んだ。

◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応児童数 22名
- 個別対応年間実施日数 35日
- 1日当たり平均実施時間 60分
- 心理担当職員との連携及び職員会での連絡、情報交換

◆平成29年3月に中学校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	進路等の状況
1	中卒	男	○		県立高知農業高校環境土木科

(3) 家庭支援の強化

- ① 家族の相談に応じるとともに、児童相談所や家族の居住する市町村・関係機関と連携し、児童と家族の関係調整を行った。
- ② 家庭引き取りに向けた児童と家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを行い、地域支援者会議を通して地域での受け皿づくりに努めた。
- ③ 児童相談所や市町村担当職員とのサポートケアを3回実施した。

(4) 事故防止と安全対策

- ① 事故発生対応マニュアル、食中毒・感染症マニュアルに基づいて対応し、インフルエンザ等の流行期には予防措置を徹底した。
- ② 防災対策マニュアルに基づき避難、地震、防災、防火訓練を定期的実施した。

(5) 家庭的養護の推進

- ① 先進施設の視察や研修会へ参加する事により、小規模化への準備を進めている。

(6) 関係機関連携と地域支援

- ① 要保護児童対策地域協議会に参加し、気になる児童や家庭の情報を共有して対策を協議し、実践に努めた。
- ② 児童相談所との連携については、ケース会、面会、通所と児童の支援状況により家庭も含めての情報共有に努めた。
- ③ 児童と夜須地域との交流については、町民運動会や神社の伝統行事、盆踊り等に参加するなどの交流を行った。

◆一時保護委託の状況（受託先：児童相談所）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成28年度	5名	5名	89日
平成27年度	3名	3名	32日
平成26年度	0名	0名	0日

◆子育て支援短期利用事業（受託先：香南市、安芸市）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成28年度	2名	3名	14日
平成27年度	2名	2名	10日
平成26年度	3名	7名	7日

(7) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 児童の養育全般、虐待、発達障害等、専門分野別研修など県内はもとより全国、中四国で実施される研修に参加し、職員のスキルアップを図った。
- ② 外部講師を招聘し、「性問題行動の理解と支援」の研修を園内で実施した。
- ③ 全職員の参加による第三者評価受審の結果を得たことにより、自己評価を施設運営など課題の振り返りに繋げることが出来た。

◆各種研修会等への参加状況

- 全養協関係 4回／4名 ○中四国養協関係 3回／8名
 ○県養協関係 8回／13名 ○各種専門研修 9回／16名

（計24回・延41名 ⇒ 1研修会当たりの受講人数／1.7名）

その他、施設実習終了後「児童の処遇のあり方」について実習生反省会を兼ねた研修会を5・9・2月の年3回全員参加で実施した。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
定員（暫定）	30名 (28名)	30名 (27名)	30名 (29名)	30名 (28名)	30名
在籍児童数	23名	24名	27名	24名	23名
職員数	15名	16名	17名	16名	17名

※職員数：臨時・パートを含む

◆平成28年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	24	27	27	27	28	28	27	26	26	26	24	23
入所	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	1	0	0	0	0	1	1	0	0	2	1	0

◆学年別児童数

平成29年3月31日現在

	就学前		小学校						中学校			高校			その他	計
	3歳未満	3歳以上	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
男	1	1	0	0	2	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	11
女	1	4	0	0	0	0	1	0	1	2	0	1	2	0	0	12
計	2	5	0	0	2	0	2	1	2	3	1	2	3	0	0	23

◆入所主訴理由別児童数

平成29年3月31日現在

入所理由	件数	構成比	入所理由	件数	構成比
父母の行方不明	0	0.0%	虐待	9	39.1%
父母の離婚	0	0.0%	経済的理由	0	0.0%
父母の拘禁	1	4.4%	精神疾患・入院	0	0.0%
父母の傷病・入院	1	4.4%	措置変更	5	21.7%
父母の養育困難	6	26.0%	その他	1	4.4%
			合計	23	100%

◆平成28年度主要な年間行事

- 4月 新年度ホーム編成、小中学校家庭訪問
- 5月 GW買物ツアー(ｲﾝ)、施設実習(龍馬学園)、第1回中央児相サポートケア
- 6月 第1回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議
- 7月 七夕祭り、第2回中央児相サポートケア
- 8月 手結盆踊り参加、室戸少年自然の家キャンプ
- 9月 施設実習(高知学園短大)、小・中学校合同運動会、高知農業高校体育祭
- 10月 第2回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議
保育・幼稚園合同運動会、夜須町民運動会、防災キャンプ in 夜須Y S P
- 11月 中学校文化祭、夜須八幡棒打ち、百手祭、施設実習(吉備国際大通信制)
- 12月 クリスマス会、ワールドメイト、グリーンコール
競輪選手会もちつき、開園記念日会食会

- 29/1月 お正月祝い、初詣、買物ツアー(休)、
- 2月 節分豆まき、施設実習(高知福祉専門学校)
第3回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議
- 3月 施設実習(高知福祉専門学校)、第3回中央児相サポートケア

母子生活支援施設 ちぐさ

昭和22年、戦後の混乱期に恩賜財団同胞援護会高知支部の経営により高知県最初の母子寮として、相生町に「ちぐさ母子寮」を開設しました。

その後、経営組織を改組し、社会福祉法人高知県福祉事業財団を設立し今日に至り、平成9年児童福祉法の改正により「母子生活支援施設ちぐさ」と名称も変更しました。

平成10年には現在地に移転新築し、高知市内唯一の母子生活支援施設として、広く県内外から母と子を受け入れ、最善の利益を保証するための支援を行い、新施設開設以来平成29年3月末まで171世帯が入所し、149世帯が退所していきました。

これからも母と子のニーズに即し、ともに自己肯定感を回復し高める支援をしてまいります。

◎平成28年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 母と子の権利と尊厳の擁護

母と子が一緒に生活できるという特徴を持った唯一の児童福祉施設で、「母と子の権利の擁護」をちぐさの理念とし、それぞれの生活課題に向き合い、安全な居場所の提供と自立に向けた考えを尊重してその歩みをともしました。

(2) 利用者の意向を意識しつつ目標設定を行い、切れ目のない支援の展開

年度当初に処遇支援方針を作成し、毎月2回の職員会でその課題を共有し臨機応変な対応に努めた。

(3) ハローワーク等就労支援機関と連携し、経済的自立への道筋をつける。

延べ求職者13名。そのうち同行支援はハローワーク(はりまやジョブセンター)5名、ジョブカフェ2名、内4名が就労した。

(4) 子供の育ちを保障するために、養育・保育に関する支援を行う。

延べ1,071名の幼児の預かり保育を実施した。

(5) DV被害からの回避・回復のため、広域利用や一時保護委託の受入を行う。

広域利用(県外、市外)についての受入はなかった。

また平成19年度から高知県女性相談支援センター等と一時保護委託契約を結び、平成28年度は1世帯3日間受け入れた。

(6) 地域ニーズに対応するため、ショートステイ・トワイライトステイを実施する。
平成28年度は希望者がなかった。

(7) 防災・減災対策の実施

毎月1回避難訓練を実施。

平成28年5月には高知市職員による地震防災の話しを受け、その後防災食の試食をする。平成29年3月には、南消防署員の指導による消火訓練を実施、その後防災食の試食をした。

(8) 職員の資質と施設運営の向上

母子生活支援施設協議会の各種研修、社会福祉法人会計講座、関係機関事業概要研修、事例検討会等24回延べ34名が参加し、それぞれのスキルアップに努めた。

◆年度別入所者数・職員数

各年度3月31日現在

年 度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
定数（暫定）	27世帯	27世帯 (24)	27世帯 (24)	27世帯 (22)	27世帯
入所世帯数	19世帯	20世帯	21世帯	24世帯	22世帯
入所人数	46名	51名	55名	61名	54名
職員数	9名	9名	9名	9名	10名

※職員数：臨時・パートを含む

◆平成28年度 月別世帯数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	24	23	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24
入所	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0
退所	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2

◆平成29年3月31日現在の入所世帯状況 (定員 27世帯)

入 所 世 帯 の 状 況	入所者数	22世帯54名 (内児童数32名)					
	市内・県内外別世帯数	高知市内 ⇒ 10		県内市町村 ⇒ 9		県 外 ⇒ 3	
	主たる入所理由	DV ⇒ 9		住居の確保 ⇒ 2		養育支援 ⇒ 11	
	在所年数	5年以上 / 5		3~5年 / 5		1~3年 / 11	1年未満 / 1
	就労者の状況	常雇 7名		パート 7名		無職 8名	
	母親の年齢構成	10代 / 0名	20代 / 5名	30代 / 7名	40代 / 9名	50代 / 1名	
	子どもの年齢構成	乳幼児 15名	小学 14名	中学 2名	高校 1名	大学 0名	

◆各種研修会等への参加状況（24回／34名）

- 中四国ブロック母子生活支援施設研修会《鳥取市》・・・3名
- 全国母子生活支援施設研究大会《東京都》・・・2名
- 全国母子生活支援施設職員研修《横浜市》・・・2名
- 法人内事例研修(子供の家)3回・・・4名
- 事例研修(女性相談支援センター)5回・・・6名
- 社会福祉簿記研修講座(ふくし交流プラザ)2回・・・4名
- 社会福祉簿記入門講座《神戸市》・・・1名
- 社会福祉簿記実務者講座《岡山市》・・・1名
- 施設内感染対策研修(あんしんセンター)・・・1名
- 児童虐待予防講演会(保健福祉センター)・・・1名
- DV被害者(暴力について語る)(ソーレ)・・・2名
- DV加害者プログラムについて(人権啓発センター)・・・1名
- 中四国児童家庭支援センター協議会(高知会館)・・・1名
- 福祉サービス苦情解決セミナー(ふくし交流プラザ)・・・2名
- 子育て支援ネットワークほっとぼーと講演会(JA こうち病院)・・・1名
- 児童福祉施設心理担当職員合同研修《横浜市》・・・1名
- H28年度児童福祉施設長研修会《大阪市》・・・1名

◆主な年間行事

- 4月 退寮者との集い、母親健康診断(1回目)
- 5月 こいのぼり昼食会、防災食料試食会

- 6月 高知市スポーツ交流会
- 7月 ハイキング(工石山)
- 8月 親子バーベキュー会食、巨峰園プール招待
- 9月 親子1日レク(香川)
- 10月 区民運動会参加、母親健康診断(2回目)
- 11月 秋祭り、みかん狩り、ケーキ作り
- 12月 ポーセラーツ作成、クリスマス会
- 29/2月 節分豆まき
- 3月 進級進学祝い旅行(大阪)、防災訓練・非常食試食会

子育て支援センター あい

地域子育て支援拠点事業として、子育て中のお母さんお父さんが、子育てが楽しくなるよう子育て情報交換・育児相談を行うとともに、親子が楽しく遊べる場所を提供するなど地域の子育てを応援している。

また、毎月子育て通信「あい」を発行し、行事内容の紹介を行うとともに（高知市保育幼稚園課・ソーレ・初月ふれあいセンター「そら」・南部健康福祉センター等にも送付）、市や他サークルの講座パンフレットを備えるなど、子育て支援のための情報提供に取り組んでいる。

◆職員数 2名（主任指導員及び指導員）

平成28年度の登録児童数 211名	
事業内容	① 育児相談 108件 (参考：平成27年度 100件・平成26年度 103件・平成25年度 140件)
	② 育児講座・・・実施回数12回 ※参加延べ人数 435名 (親：215名 子：220名)
	③ 遊び場提供 ○開所日数 243日
年間施設利用状況	平成28年度 延べ人数 5,577名 (親：2,668名 子：2,909名)
	平成27年度 延べ人数 4,613名 (親：2,250名 子：2,363名)
	平成26年度 延べ人数 6,232名 (親：2,845名 子：3,387名)
	平成25年度 延べ人数 5,552名 (親：2,733名 子：2,799名)

平成28年度育児講座内訳

開催月	講座名
4月	お母さんと一緒に遊ぶの大好き
5月	いろいろなおもちゃで遊ぼう
6月	甘えて子育て、小児の病気
7月	子どもの歯の話
8月	みんなで楽しく(女声合唱)
9月	調理実習(幼児食)
10月	あいあい運動会
11月	遠足(のいち動物公園)
12月	クリスマス会
1月	陶芸教室
2月	乳幼児の心と身体の発達
3月	お楽しみ会、親子で楽しむ

開園以来69年を経過し、本園は地域園芸農家及び勤労者家庭の児童の福祉増進に寄与してきたところですが、近年、核家族化の進展、急速な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く環境の変化に対応し、子どもや保護者に必要な支援が求められています。一人ひとりの子どもが健やかに成長するよう、保護者に対する支援と地域の子育て家庭に対する支援を職員の専門性を活かしながら取り組んできました。

◎平成28年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 一人ひとりを大切にされた保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 子どもの心を受け止め相互的なやり取りを重ねながら、見通しをもった育ちの援助を行った。
- ② 家庭と連携を密にし、子どもが安心して過ごせる場となるよう援助や関わりを行った。
- ③ 年間計画を立て一人一人の成長に合った見通しがもてる保育に努め、子どもが健やかに成長し、豊かな活動に取り組めるよう援助を行った。

(2) 早出・居残り、乳児保育、特別支援（障がい児）保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供

- ① 保護者の就労時間に応じた長時間保育を行った。
- ② 乳幼保育では積極的に取り組み、途中入所も受け入れ園児の増加に努めた。
- ③ 障がい児保育では研修に参加し、専門知識を身につけ保護者とともに子どもの育ちや支援に努めた。

(3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、園庭開放等保育所地域活動事業の実施

- ① 園庭開放は、年間10名の来園者があり入園にも結びついた。
- ② 異年齢児交流では、卒園児童との異年齢交流の中で豊かな生活体験を始め保育内容の充実に努めた。
- ③ 世代間交流事業では、地域の老人施設慰問、老人宅訪問をする中で人をいたわり、思いやりの気持ちが育つよう努めた。

(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 職員会や園内研修などで、園児の特性等の情報を職員間で共有し、個々の対応に連携して取り組んだ。
- ② 家庭環境に対する支援については、職員間の連携を図り関係機関とも協働・連携した取り組みを行った。

(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上

- ① 保育実践や研修などを通じて保育の専門性を高め、職員同士の共通認識をもつ

た取り組みをした。園に専門の講師を招き、気になる子どもや支援の必要な家庭について話し合いを行った。

(6) 保護者の就労支援の為、延長保育の実施

- ① 保育が必要な家庭を対象に、平日午後7時00分までの延長保育に努めた。又、就労だけでなく家庭状況に応じて対応した。

(7) 園児の体力づくりのための体操指導、英語講師による異文化への関わりの実施

- ① 体を動かす楽しさ、大切さを知り柔軟な体づくりに取り組んだ。
- ② オーストラリア出身の講師と一緒に、英語を交えたゲームや遊びの実施に取り組んだ。

(8) 避難訓練や防災活動の実施、及び関係機関と連携し、園舎改築についての取り組み

- ① 地域の小・中学校との合同訓練や自園の津波避難訓練計画に基づいた避難訓練、又防災活動を実施した。中学校とは、合同訓練を行い高知東警察署・三里交番の方とも合同訓練をし、評価をいただき次の訓練に活かすようにしている。
- ② 防災対策、マニュアル等に基づく実践、不審者対策等様々な想定をふまえた訓練を実施した。
- ③ 園舎改築は、起工式が終わり工事が始まる。

(9) フッ素洗口の取り組み

- ① 4、5歳児を対象週5回を目安に、フッ化物洗口液でうがいを行った。
- ② フッ素洗口する事で口の中の細菌の働きを弱め、むし歯予防・歯の質を丈夫にする。

平成29年3月31日現在

定員	90名
職員数	22名（正職9名、臨職7名、パート6名）
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童84名、居残り児童84名

※臨時保育士7名中に特別支援担当保育士1名。

家庭支援推進加配保育士1名。

嘱託医内訳（歯科医1名・内科医1名）

◆在籍児童数

平成29年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	9	12	19	13	21	21	95

◆年度別：月平均在籍児童数

年 度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
3歳児以上	64名	61名	64名	64名	54名
3歳児未満	45名	39名	36名	39名	35名
計	109名	100名	100名	103名	89名

◆平成28年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	84	84	85	86	86	90	92	92	93	93	94	95
入所	0	0	1	1	0	4	2	0	1	0	1	1
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・12名
- 給食関係研修・・・・・・・・・・6名
- 保育士研修・・・・・・・・・・45名(高知県/高知市/全国保育士会)

- 保育業務に関する研修・・100名(特別支援(障がい児)保育研修会・発達障がいセミナー・リズム&ダンス研修・人権研修ほか)
- 危機管理研修・・・・・・・・・・6名
- 防災研修・・・・・・・・・・2名

◆平成28年度主要な年間行事

- 4月 入園式・対面の日、内科健診、幼児組懇談会、こども110番訪問(4・5歳児)
- 5月 親子こいのぼり運動会、老人ホーム慰問(シルバーマリン)
乳児懇談会、職場体験(中学生)、家族の日
- 6月 小学一年生里帰り、参観日、歯みがき指導(学園短大生)、歯科検診、
交通安全教室(幼児組)、不審者訓練
- 7月 プール開き、七夕笹飾り(祖父母)、夏まつり、地震津波避難訓練(高知東
警察署・三里交番合同)
- 8月 老人ホーム夏祭り(5歳児)
- 9月 敬老慰問
- 10月 運動会、内科健診、幼児組園外保育、地震津波火災避難訓練(高知東警察署・
三里交番合同)、芋掘り
- 11月 不審者訓練(警察合同)、火災通報避難訓練(消防署合同)、記念写真、年
長児お買い物、保育の日、勤労感謝慰問、歯科検診、就学前健康診断
- 12月 もちつき、お店屋さんごっこ、人形劇観劇、クリスマス会、地震津波火災
訓練、(高知東警察署・三里交番合同)

- 29/1月 サッカー教室（高知大）、乳児組懇談会、地震津波火災避難訓練（中学校・高知東警察署・三里交番合同）、フッ素洗口指導（4歳児・5歳児）
- 2月 豆まき、小学校一日入学（5歳児）、生活発表会、交通安全教室（5歳児）
幼児組懇談会、不審者訓練
- 3月 卒園式、お別れパーティー、新入児保護者会、三里消防出張所合同火災訓練

その他 ◆ お誕生会、火災避難訓練、体操・英語教室は毎月行っている。

保育所 丸の内保育園

開園46年の本園は、開設以来高知街地区の「たかしろ乳児保育園」とともに高知市乳児保育の推進役を果たしてきました。

近年、核家族化、少子化の進行、又子育て家庭の地域からの孤立、子育て不安の増加等子どもと子育てをめぐる環境が大きく変化し、すべての子どもたちの健やかな育ちを支えるとともに、入所する子どもや保護者に対する適切な支援が求められています。

また、家庭や地域など様々な社会との連携を図りながら、それらに向けた取り組みが行われています。

子ども子育て支援新制度が進められる中、子どもの連続した発達の保障、質の高い保育を目指し、研修体系の構築、専門性の向上を目指しています。

◎平成28年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

- (1) 安心して過ごせる家庭的な環境の中で一人ひとりを大切にされた保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障**
- ① 乳幼児期における情緒の安定や信頼関係の形成、一人ひとりの発達に応じた適切なかわりに配慮し、質の高い教育、保育の安定的な提供に努めた。
 - ② 保護者、家庭の生活の実態、子ども達の現状をしっかりと把握し、安心して安全に園生活を過ごすことができるよう職員間の共通理解のもと取り組んだ。
- (2) 早出・居残り、乳児保育、特別支援（障がい児）保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供**
- ① 入所する子ども達の育ちを支え、保護者の子育てを支えるため、0才児途中入所を多く受け入れた。
 - ② 障がい、発達の気になる子ども、貧困など社会的な支援の必要性が高い子どもや家庭を含め、子育て家庭や子どもの育ちをめぐる環境の変化をふまえ柔軟に対応した。
- (3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、保育所地域活動事業の実施**
- ① 地域の高齢者宅、デイケア施設等への訪問を行い、人をいたわる優しい心を育むことができた。
 - ② 小学生の行事参加や地域の小学校との関わりを通し、豊かな生活体験を得ることが

できた。

(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 保護者との連携を密に園全体で子育て及び家庭支援の強化を図った。
- ② 家庭環境に対する配慮等、保育内容の充実を図るとともに、保健師、保育士による面談、相談の機会を設け園全体で取り組んだ。

(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上について

- ① 施設内外の研修に計画的に参加し、職員の自己研鑽に必要な機会の確保に努め、研修後は職員会等で内容を共有した。
- ② 子ども・子育て支援制度についての理解等、一人ひとりが課題を明確にすることができた。

(6) 保護者の就労支援の為、延長保育、土曜午後保育の実施

- ① 保護者の就労支援の為、保育の必要な家庭対象に平日午後7時まで、土曜日は午後5時30分までの保育を実施した。

(7) 津波避難計画に基づいた避難訓練や防災活動への積極的な参加

- ① 様々な想定に基づいた訓練を積極的に実施した。
- ② 防災、減災対策の課題を共有しつつマニュアル、対応についての見直しを行った。

(8) 近隣の居住者の少ない園ではあるが、今後は地域の子育て支援の機能を強化すべき取り組みの展開

- ① 保育園が地域子育て支援のニーズにこたえていく役目は年々増加している。地域の子育て家庭とつながることの必要性を考え、地域の親子への園行事への参加の案内等、取り組みは進めてきた。地域と一体となった支援には十分結びついていないが、地域の園児確保や開かれた園づくりを今後も考えていきたい。

(9) 園舎改築についての取り組み

- ① 他園見学、情報収集など実施してきたが、今後は関連機関との連携を図りながら改築への取り組みを具体的に進めていく。

平成29年3月31日現在

定員	120名
職員数	34名（正職10名、臨職17名、パート7名）
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童69名、居残り児童101名
土曜日の午後保育	登録園児数38名、平均利用人数18名

※ 臨時職員 17 名中に特別支援加配保育士 3 名、家庭支援保育士 1 名を含む
 パート職員 7 名は延長保育時間対応（3 時間～6 時間パート）
 嘱託医内訳（歯科医 1 名・内科医 1 名）

◆在籍児童数

平成 29 年 3 月 31 日現在

年齢別	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合 計
児童数	20	25	24	18	20	17	124

◆年度別：月平均在籍児童数

年 度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
3 歳児以上	63 名	62 名	58 名	55 名	55 名
3 歳児未満	58 名	60 名	57 名	65 名	65 名
計	121 名	122 名	115 名	120 名	120 名

◆平成 28 年度 月別児童数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
総数	112	116	117	118	124	123	123	123	124	124	124	124
入所	11	4	1	3	6	1	1	0	4	0	0	0
退所	0	0	2	0	2	1	0	3	0	0	0	0

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・ 11 名
- 給食関係研修・・・・・・・・・・ 7 名
- 保育士研修・・・・・・・・・・ 11 名（高知県／全国保育士会）
- 保育業務に関する研修・・ 64 名（特別支援(障がい児)保育研修会・家庭支援研修会、発達障がいセミナー・人権研修、絵本・遊びの研修、カウンセリング研修)
- 保小連携研修・・・・・・・・・・ 8 名
- 防災研修・・・・・・・・・・ 1 名

◆平成 28 年度主要な年間行事

- 4 月 入園式、顔合わせ集会、乳幼児組別懇談会、個別懇談、春の交通安全出発式参加
- 5 月 こいのぼり運動会、全園児健診、わんぱくこうち行き(年長児)、職場体験(中学生)、劇団ひこう船観劇(年長児)、検尿(4・5 歳児)
- 6 月 保育参観、離乳食試食(0 歳児)、プール開き、歯科検診、不審者侵入訓練
- 7 月 市営プール行き(年長児)、七夕まつり、夕涼み会、夏の水遊び、

園児・小学生の实践交流

- 8月 大掃除、職員保育見学(第六小)、保小連携合同研修会、交通安全イベント(年長児)
- 9月 敬老慰問、敬老の日行事(祖父母への手紙を出す)、未満児健診、消防署立ち会い避難訓練(地震、火災)
- 10月 運動会、親子遠足、お芋ほり、筆山山登り(10~12月)
- 11月 木曜日お買物、交通公園安全教室参加(年長児)、家族の日プレゼント、保育の日、バザー・お店やごっこ、園児・小学生の实践交流、全園児健診、歯科検診、就学前健康診断
- 12月 もちつき、クッキーづくり、クリスマス会
- 29/1月 お正月あそび、不審者侵入訓練
- 2月 豆まき、小学校一日入学(5歳児)、生活発表会、未満児健診
- 3月 卒園式、茶話会、お別れ遠足(香北青少年の家)、新入児保護者会、消防署合同避難訓練(火災)、園児・小学生实践交流
- その他 ◆ 毎月お誕生日会、避難訓練を行っています。
◆ 個別相談、育児相談は必要に応じて行っています。